

宇佐美不喚洞 うさみ なくわんどう 俳人。明治十年十一月八日石川縣生れ、昭和十四年一月二十八日歿（八七七一九元）。本名英、初名英太郎。筆名不喚、不喚書屋主人、不喚樓、不喚樓主人、不喚生、不惑洞、喚等。函館商業學校卒。東武鐵道入社、重役根津嘉一郎の重用せられ、その娘と結婚。のち同社支配人、また日本實業家協會協會書記長、東京灣汽船專務等々務めた。家内不和のよう、細島梁川の見神論、近海常観、キリスト教の親交。俳句は明治二十五年から河東碧梧桐の師事。くく自由律也、交友は流派を越えたる。

著書『見神論評』（編、宇佐美英太郎名、明治四十年四月、二十五頁）
『尾文淵堂』（『自藻』（宇佐美不喚名、大正六年七月十二日発行、東京堂發賣）、『涓滴不喚洞』（昭和十一年二月十日書物展會社）等。

